

**行田市公立学校適正規模・適正配置の基本方針及び再編成計画に  
関する保護者・住民向け説明会（行田中学校区）会議録**

- 1 開催日時 令和元年5月27日（月） 午後7時～8時50分
- 2 開催場所 行田市産業文化会館2AB会議室
- 3 出席者 保護者 8人、その他住民 6人 合計14人
- 4 教育委員会 鈴木教育長、門倉学校教育部長、江利川生涯学習部長  
荻原学校教育部長、諸貫教育総務課長、白井主幹、久積、嶋田、柏瀬
- 5 会議内容

発言者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
司会	1 開会
教育長	2 あいさつ
司会	3 教育委員会事務局紹介
教育総務課長	4 計画に関する説明
	5 意見等
参加者A	学級数の将来推計において、本市独自の少人数学級の35人、国の基準の40人のどちらで算出しているのか。
教育総務課長	少人数学級の基準の35人で算出している。
参加者A	国の基準で算出すると変わるのか。
教育総務課長	小規模な学校では変わらないが、1学年複数学級ある学校においては、学級数が少なくなる可能性がある。
参加者A	本来の学級の数で計画したらどうかということも把握しておく必要がある。
教育総務課長	そういう数字も用意しておく。
参加者B	適正規模化を行う上での留意点で相談員を配置するとあったが具体的に教えてほしい。 要望であるが、以前、再編がうまくいかなかった理由の一つに、大人

<p>教育総務課長</p>	<p>の都合もあったと聞いている。行田の教育は子供ファーストで進めてほしい。</p> <p>短期的な計画として、複式学級の解消・回避のため、学校の再編を行う。その対象校において違う学校に通うことになる子供たちの不安解消のため、悩みを聞けるよう学校に相談員を配置する。なお、再編前の配置も検討している。</p> <p>子供たちのために教育環境を整えていくということを第一に取り組んでいく。</p>
<p>参加者C</p>	<p>自分の学校がなくなるのは寂しい。30年先ではあるが、南部地域の範囲はとんでもなく広く、通学する子供たちには酷である。将来的には、東西南北地域を均等割にできないか。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>学校施設については、さまざまな形で地域において活用されており、閉校となっても、すぐに取り壊すのではなく、地域のための利用方法等について、地域の方と一緒に考えていきたい。</p> <p>再編の枠組みについては、中学校のつながり、地域のつながりを考えた計画で、距離だけで考えてよいのかという議論もあった。30年後の子供の数の推移によりさらに検討していく必要がある。</p> <p>なお、あまりに遠い距離を通学したり、通学路に危険箇所があったりした場合の中学生の通学方法について、地域の方と一緒に考えていきたい。</p>
<p>参加者A</p>	<p>① 行田中学校区において、東小の佐間地区の子供が南小に移行するとあるが、時期を決めて一斉に転校するというイメージでよいのか。子供にとっては大きな事件である。それは本当に必要なのか考える必要がある。</p> <p>② 小中一貫校施設分離型の設置時期が示されていない。分離型の一貫校の具体的なイメージが湧かない。</p> <p>③ 要望であるが、この計画の進捗や説明会等の市民の質疑等については市報で特集を組めないか。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>① 小中一貫教育において中学校ブロックを揃える必要がある。学校と地区が違うことで、子供たちにも影響があると考えた。建替え等の転換期に学校と地区を可能な限り揃えていこうと提案しているものである。</p>

<p>学校教育課長</p>	<p>② 小中一貫教育は、可能な限り早期に導入したい。分離型については、例えば単元により小学生が中学校へ通ったり、中学校の教員が小学校に出向いたりするなどあるがその方法は今後詰めていく。</p> <p>小中一貫の補足であるが、小中学校でめざす子供像を共有するものであり、今後2年間で小学校と中学校の学習の連続性を持たせた年間指導計画を立てていく。まずは5年生から始まる家庭科や教科化される英語などで中学校の教員が授業をすることを検討していく他、その土地のふるさと学習など、できるところから小中一貫教育を導入していく。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>③ 学校再編については、様々な手法で市民へ情報提供していく。</p>
<p>参加者B</p>	<p>情報提供はありがたい。市民としても、知って考えて行動する必要があると考える。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>ぜひ市民の方にも一緒に考えていただきたい。</p> <p>6 閉会</p>